2011 年 1 月 28 日

「今年の展望 ― アジア太平洋地域の今後と TPP の行方」

神戸学院大学名誉教授 谷口弘行

（講義の要項メモ）

① 「平成の開国」「第三の開国」とも言われている TPP に、日本が参加するかについて国論は分かれている。菅内閣は、「協議開始」というあいまいな表明にとどまり(2010 年 12 月)、交渉には参加できないでいる。

② 日本の将来の方向を決するとまで言われる TPP とは何か。なぜ日本国内は、参加・不参加に分かれているのか。その背景に何があるのか。

③ TPP を取り巻くアジア太平洋地域の地域主義と地域機構の制度化の現状から、TPP の今後を考える。

１．WTO(世界貿易機関)と FTA(自由貿易協定)・EPA(経済連携協定) ― ２国間協定の発展は、なぜ必要になったか

（１） GATT(関税および貿易に関する一般協定)(General Agreement on Tariffs and Trade)(1947)

・1930 代の世界恐慌と保護貿易主義の台頭＆貿易戦争が、 第二次世界大戦の一因に
・通商のために：円滑な自由貿易の実現を目的に、多国間の協定締結である GATT 成立
・通貨のために：国際通貨基金(IMF)＆国際復興開発銀行(IBRD)が共に発足
・1986～1994 交渉の結果→ GATT を拡大発展させた新たな貿易ルールの WTO 協定
・1995 国際機関として WTO を設立

・米国を中心とした旧西側先進国の主導で、構築された国際経済の制度や枠組み
・貿易・投資の自由化は、経済大国米国の国策であった。

（２） WTO(世界貿易機関)(World Trade Organization)

・自由貿易、無差別待遇、多角的通商体制を基本原則
・物品貿易だけでなく金融、情報通信、知的財産権、サービス貿易を含めた包括的な国際ルールを協議する場
・現在行われている新多角的貿易交渉(新ラウンド)は、2001.11 にカタールのドーバーで行われた第 4 回 WTO 閣僚会議で開始を決定し、ドーバーラウンドと呼ばれている。2002.2 の貿易交渉委員会で、新ラウンドがスタートした。
・加盟国は 153 ヵ国：中国(2001 加盟)、ベトナム(2007 加盟)、ロシア(加盟申請中)

・地域間の貿易ルールづくりは、WTO を通した多国間交渉の形がとられてきた。しかし多国間交渉を、一つ一つ行っていくのには多くの時間と労力がかかるために、WTO を補う地域間の新しい国際ルールとして、FTA や EPA が注目されるようになった。
・中国やインド等の新興国が、秩序形成に関与し、従来のルールを変えようとしている。WTO のドーバーラウンドの停滞、知的所有権の争い等々

（３）FTA(自由貿易協定)(Free Trade Agreement)
EPA(経済連携協定)(Economic Partnership Agreement)

FTA：物品の関税やそのサービス貿易の自由化など、通商上の障壁を取り除き自由貿易地域をつくることを目的とした、２国間以上の国際協定
EPA：FTA の要素に加え、貿易以外の人の移動、知的財産権の保護、投資、政府調達、２国間協力などを含めて締結される包括的な協定

・1985 年に始まった GATT ウルグアイ・ランド以来、農産物、知的所有権、サービス貿易等々の分野で、自由化交渉が促進されてきた。途上国では、弱体な国内産業を保護するための対外規制導入が難しくなった。その結果、南北格差が拡大していった。
・権限が集中している WTO の力をできるだけ避けながら、南北格差が是正され、公正な貿易が行われるように、多極化した経済構造が必要になってきた。
ex.①途上国の要求により、貧困根絶を目的にして設立された UNCTAD(国連貿易開発会議)(1964) ②東南アジアの経済・社会発展を目的とした ASEAN(1967) ③アフリカの経済成長を目指す AU(アフリカ連合)等

２．ASEAN(東南アジア諸国連合)(Association of Southeast Asian Nations)
― アジアの地域主義・地域機構の発展として

（１）ASEAN 設立宣言(1967)
・ベトナム戦争で不利な状況にあった米国が主導して生まれた、反共地域機構
1975 ベトナム戦争終結(ベトナムの「勝利」で終わる)→ 経済協力のための機構に
・加盟国(反共 5 ヵ国)：シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン

（２）ASEAN 協和宣言(1976)
共同体について言及

（日本の役割）
・1970～2000 代　アジアの経済成長
日本→アジア NIEs（韓国、台湾、香港、シンガポール）→アジア新 NIEs(タイ、マレ-ア、インドネシア) (Newly Industrializing Economies：新興工業経済地域)

・高度経済成長の初期条件
外国の援助(当初は、特に日本からの戦争賠償、植民地補償、ODA 等による)
外国資本・技術の導入(当初は、特に日本からのもの)
政府の役割(開発独裁)
土地(農地)改革による国民の平準化
教育レベルと文化的伝統

・アジアの経済成長連鎖の過程→ 各国は地域分業体制に組み込まれ＆分業体制が深化
→ アジア地域経済統合へ・・・域内グローバル化過程
・日本を始めとする域外先進国の外国援助・外資→輸出志向工業化始まる： 輸出加工区による垂直分業体制＆地元中小企業を発展させた→ やがて彼らが後発国とつながることにより、この垂直分業は水平分業へ移行し発展した。

・自由貿易と複雑な国際分業は、産業構造のインバランスを乗り越えキャッチ・アップして行く過程：このアジア経済の過程に最も遅く組みこまれてきたのが、ASEAN 諸国→この国際分業体制の深化・発展→やがて国際協力＆市場の共同化を必要とする段階へ

・貧困・民主化のための一つの指標：国民一人当たり GDP
US＄1000～：脱・戦後の貧困
US＄2000～：民主化(自由選挙、言論・思想の自由等)への要求

・ASEAN 加盟国の拡大(加盟年)
ブルネイ(1984)、ベトナム(1995)、ラオス、ミャンマー(1997)　カンボジア(1999)
(オブザーバー) パプアニューギニア

（３）ASEAN 協和宣言Ⅱ(2003) (Declaration of ASEAN Concord Ⅱ)
・2020 年までに、安全保障、経済、社会、文化の分野での共同体を目指す。(ASEAN 共同体構想を明記)
・2007 の ASEAN 首脳会議で、「2015 年共同体設立を目指す」を採択
・2008 ASEAN 憲章制定(ASEAN の法的枠組みとして、共同体の最高法規)
全加盟国の批准により発効
ASEAN は地域機構としての法人格を持つ

（４）ASEAN Way (ASEAN の手法)
・規則や決定には、「法的強制力を持たせない」。それらは加盟国が到達すべき目標である。それらを受け入れることが可能な段階にある、加盟国から従う。次第に規則や決定の遵守を、他の加盟国にも広げていく。

（５）AFTA(ASEAN 自由貿易地域)(ASEAN Free Trade Area)(1993 発足)
・ASEAN 域内の経済協力推進のために、ASEAN 首脳会議で決定、段階的に貿易自由化を行い始めた(1993～2008 の 15 年で実現)→ 東南アジア 10 ヵ国による地域経済協力圏が形成
AFTA 域内での競争促進、東南アジア全体の国際競争力向上、AFTA によって形成される広大な市場に外国資本が参入
・ASEAN 後発加盟国４か国(ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア)は、2015 までにゼロ関税に
・ASEAN＋１FTA→ 事実上の「東アジア(ASEAN10 ヵ国＋日中韓)FTA」

域内人口約 19 億人、世界最大の自由貿易圏の誕生
2008　ASEAN・日本包活的経済連携協定(AJ-CEP)
2009　ASEAN・韓国 FTA
2010　ASEAN・中国 FTA(AC-FTA)

３．APEC(アジア太平洋経済協力/会議)(Asia Pacific Economic Cooperation)
― 拡大された地域主義

（１） アジア地域経済協力の最初の制度化(1989 設立)
・大平首相のもとでの環太平洋研究グループの報告→ 1980 代初、日豪間で環太平洋連帯構想の推進を合意
・民間レベルの協議組織：太平洋経済協力会議(PECC)、太平洋経済委員会(PBEC)→ 1989 政府レベルの協議体として APEC 設立
・豪が主導、当初同地域の 12 ヵ国参加（現在 21 ヵ国）

・日豪のねらい
1960 代～日本の高度経済成長→ 豪：日への資源輸出急増
日：中国へ資源を頼ることを将来にわたって避けるために
豪：一次産品輸出　日：工業製品＆資本輸出

・米国の介入とねらい
日、アジア NIEs、ASEAN 諸国の持続的急成長→ 対米輸出
これら諸国への輸入は高関税→ 米：1980～世界最大規模の赤字国
・米の太平洋貿易：大西洋貿易量＝1.5：1.0
・クリントン政権(1992～2000)：世界の成長センターと言われたこのアジア・太平洋地域との関係を再構築→ 米経済の回復と発展のための最大の戦略に

・日豪関係から始まった APEC→ 「米国に乗っ取られた」と言われた。

（２） 経済協力の協議→ 貿易・投資の自由化の実行へ
・1994 ボゴール宣言：米国主導で、貿易・投資の自由化の方針が宣言として合意
先進国：2010 までに、途上国は 2020 までに目標を実現する。
・APEC の合意は、「努力目標であり法的拘束力」をもたない。
・やがて米国や他の先進国は、APEC に期待することが少なくなり、以後協議体としての約割を続けてきた。

（３） ASEAN の APEC に対する異なる見方
① 米日中などの大国を APEC の中に定着させ、その枠組みを制度化していく（シンガポールの意見）

② APEC が米国主導になり、強制的なルールにもとづく地域機構化していくことに反対する（マレーシアの当時のマハティール首相の意見）

・マハティールは 1990(第 1 回 APEC が開催された翌年)、EAEG(東アジア経済グループ)(East Asia Economic Group)構想を提唱→ 米国、日本の反対で実現せず。

４．開かれた地域機構としての ASEAN ― 地域主義からの発展

（１）ASEAN・PMC(ASEAN 拡大外相会議 Post-Ministerial Conferences)(1978)

・意見交換の場

・ASEAN10 カ国＋域外 10 カ国(日 米 中 豪 NZ EU 加 韓 印 露)

（２）ARF(ASEAN Regional Forum)(1993)

・安全保障問題を協議する。

・東南アジア地域の安全保障に係わりをもつ 22 カ国(ASEAN・PMC＋モンゴル、北朝鮮)

（３）「ASEAN＋３(日、中、韓)」(1997 以降定例化)

・話し合いの枠組み。安全保障と経済問題を協議する。

（４）「ASEAN＋６(日中韓＆豪 NZ 印)」(2005.12～)(5 回まで開催)

・「東アジア首脳会議」或いは「東アジアサミット」と称されている。

・東アジアサミット議長声明案 (2010)

「米国とロシアが、次回から正式メンバーになることを歓迎する」

・第 6 回東アジアサミット：2011.10 インドネシアで予定

（５）TAC(東南アジア友好協力条約)(Treaty of Amity and Cooperation in Southeast Asia)

・1976～

・ASEAN 設立 5 カ国、ブルネイ、パプアニューギニア、ベトナム、ラオス ミャンマー、カンボジア、中、印、日

・国連憲章に基づき、域内諸国間において平和的な関係を維持・管理するための国際的合意、国連総会は本条約を承認(1992)

５．FTAAP(アジア太平洋自由貿易地域・圏)(Free Trade Area of Asia-Pacific) と TPP(環太平洋経済連携協定)(Trans-Pacific Partnership) ― 地域主義とグローバリズム

（１）FTAAP：APEC(アジア太平洋経済協力)の加盟国(現在 21 ヵ国)全域において、自由貿易圏をつくる構想の名称

・2004 チリで開催された APEC 首脳会議に、APEC ビジネス諮問会議(APEC Business Advisory Council: ABAC)より提言→ 2006 ハノイで開催された APEC 首脳会議で、米国(ブッシュ大統領)より提唱、話題として取り上げられた。

・この構想が実現されたときに形成される、貿易自由化経済圏規模：世界人口の約 40%、

世界の GDP の約 60%を占めることになる。

（２）FTAAP を実現するための具体的な経済的な枠組みを検討→ 2010 横浜で開催された APEC 首脳会議で、宣言として「横浜ビジョン」が出された。

・「APEC の地域経済統合を進めるための主要な手段である、FTAAP の実現に向けて具体的な手段をとる。FTAAP は、①ASEAN＋３　②ASEAN+６　③TPP(環太平洋パートナーシップ)協定といった、現在進行している地域的な取り組みを基礎として、さらに発展させることにより包括的な自由貿易協定として追及されるべきである」

・「ASEAN＋３」「ASEAN＋６」(経済協定としてはまだ構想段階であり、実体がない)、TPP(協定として、実体をもち始めている)が、並行して存在し進行している　→ FTAAP ＝APEC

「小が大を呑みこむ」「ASEAN が運転席に座る」「アジア的手法」 「グローバリゼーションは、米国の一時期のイデオロギーにすぎない」という見方がある。

（３） TPP

・多国間(途上国＋先進国)の関税撤廃を目指す。

EPA＆FTA：２国間の協定

・国の規模は小さいが、域内自由化に熱心な国々が、関税ゼロの FTA をつくろうと始めた、環太平洋の多角的自由化交渉。中国を中心とする垂直的統合に対する小国の警戒心がある。TPP は域内経済の水平的統合を目指す。

・アジア太平洋地域で、「原則すべての関税を撤廃」する開放度の高い協定

輸出入にかかる関税を、10 年かけて撤廃する。

人、物、カネの移動を自由に(関税・非関税障壁の撤廃)→ 互いの経済成長をつなげる。

・物流、サービス、金融、保険、通信などの幅広い分野の自由化を目指す。

・2006　シンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの４ヵ国で発効

現在、米、豪、ペルー、ベトナム、マレーシアの 5 か国が参加意思を表明し交渉開始

・EPA と TPP はともに法的拘束力を持つが、EPA は原則的には 2 国間の協定であり、TPP は多国間の関税撤廃を目指している。

・米国：経済再生のために「輸出倍増計画」を提唱している。

金融から「ものづくり」へ

・米国主導でルール作りが始まっている（2011 年 11 月を目指して）

関税撤廃の例外をどこまで認めるか。

撤廃の猶予期間をどうするか。

・法的拘束力をもつ TPP を FTAAP への突破口にすることが、米国のねらいか？

・参加国・地域が増えれば、FTAAP という自由貿易圏が生まれ、APEC21 ヵ国・地域の経済統合に発展する可能性がある。

日本、中国、東南アジア諸国、オセアニア諸国、米国、中南米の一部の自由貿易圏が、一つの国のような経済圏になる。

ex.　NAFTA(北米自由貿易協定)：米、加、メキシコ３ヵ国の自由貿易協定（この３ヵ国間では、関税がなく自由に貿易ができる）

（米国の考え）
・ASEAN＋3、ASEAN＋6 といった米国を排除した経済の枠組みが議論されている。米国はアジア太平洋地域の安全保障では大きな役割を果たしているのに、経済では仲間に入れないのはおかしいと考える。
・アジア太平洋地域は、世界経済の中心になってきている。
・FTAAP⇒APEC を強制力ある機構にするために、TPP を発展させる。
　TPP は、WTO のルールと整合的な政策であると考える。

6. TPP と日本 ― 「第三の開国」か

・菅政権
2010.10「わが国も TPP への参加を検討する」と表明
2010.11「関係国との協議を開始する」参加交渉は明言せず、可否の判断は事実上先送り
・2010.12 ニュージーランドでの TPP 交渉：日本のオブザーバー参加は断られる。
「部屋の奥に座って、内容を聞くだけという方法は認められない」(同国首席交渉官)

（1）日本が TPP に参加した場合に受ける影響の試算(管轄業界を優先して試算)
① 内閣府
GDP：2.4～3.2 兆円増加、0.48～0.65％増加
② 農林水産省
農業関連の GDP：4.1 兆円減少、GDP 全体：7.9 兆円損失、環境面 3.7 兆円損失
GDP:1.6％減少、340 万人の雇用喪失
食料自給率：現在 40％→ 14％
③ 経済産業省：参加しないと
GDP：2020 までに 10.5 兆円減少(主に、自動車、機械産業、電気電子の業種で)
GDP：1.53％減少、81.2 万人の雇用喪失

（2）政財界
① 米倉経団連会長「TPP に参加しないと、日本は世界の孤児になる」
② 社民党、国民新党：反対

（3） 消費者としての国民：安い農産物が入ってくる。
日本として：農家の廃業が増加、食料自給率が下がる。
自由貿易という世界の潮流にどうかかわるか。
（4）中長期の「国益からの」の戦略的思考から、問題点をまとめ全体像を考察することによって、判断の方向が見えてくる。
・個々の問題の比較検討だけでは、「現状維持・既得権擁護」のための「思考停止」となり、「平成の鎖国」に向かう可能性がある。

・この 9 ヵ国に対する日本の輸出額：日本全輸出額の 25％
・少子高齢化＆人口減少→ 生産・消費人口(15～65 歳)減少→総需要減少＆ 供給過剰→

雇用減少→経済規模縮小(デフレ)

・「国民の経済的幸福度」

人口増加期：GDP の成長必要＆開発型経済

人口・経済規模縮小期：1 人あたり GDP が問題に＆教育、医療、環境型経済(人間の安全保障型経済)へ

・投資の自由化→ ①生産の海外移転加速(生産の移転をアジアへ) ②TPP による関税撤廃で安い部品の調達ができ、関税なしの輸出で、輸出先での価格競争力が高まる→ 海外移転を防ぎ、雇用を守る＆中小企業の海外進出が容易に ③国内投資も増える→ 国内産業の空洞化抑えられる＆国内雇用も増える。

・しかし賃金差からの生産拠点の海外移転は、賃金格差が縮小するまで続く。

ex.タイ従業員の給料：日本の約 10 分の 1

日本の雇用減少あるいは日本の従業員の賃金低下→ 輸出で経済成長する＆国内で新しい内需を拡大して経済成長する。

・海外から安い農産品が大量に入ってくる→ コメなどの高関税で守られてきた農産物は厳しい競争にさらされる→ 離農者が増大

日本の輸入関税の例

コメ 778%、小麦 252%、砂糖 328%、牛肉 38.5%

日本の輸出の際の関税の例

トラック：米国 25%

・欧州では：国が農産物を買い支え価格を維持する「消費者負担型」から、値下がりによる農家の減収分を税で穴埋めする「納税者負担型」に変わってきている。

日本での個別所得補償制度は、欧州の納税者負担型と同じ性質をもつ。

・日本農業の再生：政府は、国内農業強化(企業参入、農地集約・大規模化等々)に向けた基本方針を策定予定(2011.6 までに)・・・TPP 参加決断の条件とする予定

高品質の農産物のアジア地域への輸出は、今後増大すると考えられる。

・①日本社会の構造改革：非関税障壁撤廃へ ② 食糧安保を進めるきっかけにする。

・日本の農業従事者の平均年齢：65.8 歳

・異なる文化・価値観を持つ人々との交流や生活からくる摩擦＆融和や共存を図る努力 → 新たしい活力のある社会へ

・韓国の例

FTA 交渉：2010.10 EU ＆ 2010.12 米国と妥結（批准＆発効を待つ）

TPP 参加は、米国との FTA の批准まで正式表明をしない。

・「実質的に経済水準の差が少なく、文化や生活の価値観に基本的な違いがない国家間でないと、共同市場の形成は難しい」「それは先進大国に有利に、途上国に不利に作用する」などと言われてきた

・「政治の壁は破れなくても、経済の壁は越えることが出来る」という、古くて新しい言葉

（５）「国際公共財・福祉へ向かうための」戦略的思考を生み出すか、或いは
「自由貿易という経済思想」は先進国のイデオロギーか。

① 自由貿易は、先進国に有利に作用する。同時に他方では、国際格差を生んでいく。
② 自由貿易は、途上国が先進国へキャッチアップし平準化を実現する過程をつくる。
③ 地域内の自由貿易は、地域主義を生み、域内での保護主義の可能性を生み出す。

７．アジア地域経済は、制度的には２つの流れと構想がある。
― 先進国・新興国とグローバリズムの交差する中で

（１）東アジア共同体構想へ向かうアジア（以前の勉強会で、検討した問題です）
東アジアサミット＆東アジア(ASEAN+3)FTA・EPA→東アジア共同体

（２）アジア太平洋自由貿易圏・共同経済市場へ向かう方向
APEC→TPP → FTAAP

・広義の自由貿易(貿易等々の自由化)を原動力とする国境を超えた経済活動の過程は、一地域機構の形成からより広範囲の地域機構の形成へと発展し、やがて世界規模へと拡大していくだろうか。

2011 年 1 月 28 日

宝塚市長を辞して

元宝塚市長　正司泰一郎先生

60 周年式典に出席して感銘を受けました。他の婦人団体にも出席しますが、この会は少し違って、皆様が輝いてお元気に活躍されて素晴らしいことです、高齢者もおられて立派です。

平成 3 年～15 年、12 年間の宝塚市長をやめて 8 年が経ちました。在職中も辞してからもずっと思っていることは沢山ありますが、その中の 1 つ「美しい街づくり」についてお話したいと思います。私は従来より街や人の暮らしに興味があり、好きでした。

市長選の時の公約は

①　一流の都市を目指そう　②　市民が主役　③　インフラ整備を急ごう　の３つでした。

宝塚は昭和 29 年誕生の新しい町で、歌劇のお陰で全国的に有名でイメージが良くて、年に 230 万人が宝塚歌劇の生の舞台を見ています、これは世界で類を見ません。歌劇の「夢の舞台」が宝塚の町とオーバーラップして（ex. 西宮市＝甲子園球場　宝塚市＝宝塚歌劇）、皆さんは素晴らしいイメージを抱いて宝塚に来られるが、実際はそうではなかったのです。

日本は、

敗戦で貧しい国（三等国）というイメージで昭和 33 年頃でも闇市があり、人々の暮らしに差がありました。その後昭和 39 年のオリンピックによって外貨事情が良くなり、次第に豊かになり評価は次第に上がってきましたが、地位も生活もまだ低レベルでした。世界 80 カ国を廻ってヨーロッパやアジア各国を見てきましたが、帰国して「豊かになったにも拘らず美しくなれないのか」と痛感していました。駅前風景はどこも一諸で、綺麗に整然としているが美しく魅力的ではない。反面、世界にはお金は日本ほど無くても美しい街があります。

お金を持っただけでは人は尊敬されません。日本は、豊かさを物で計っていたのです。

世界は

経済大国になるとその豊かさの証しを、例えばフランスの美しい街、英国一福祉国家、アメリカ一映画産業のように、示しています。

世界の観光国は、1 位フランス　2 位アメリカ　3 位スペイン　4 位中国・・・・33 位日本です。

お金を持った先進国は人々を惹きつける素晴らしい街や文化を創り上げましたが、日本は中央で一律の基準（前例　踏襲　横並び　平等主義）を画してしまい、明治以降責任をとらないという制度になってしまっていて、つまり、閣議は全員一致でないと決まらない、誰が決めたのかわからない。従って誰も責任をとらない。このような制度は、悪いところがいっぱいあるので改革しなければなりません。

「美しい街をつくる」

美しい街づくりは、つくる側に見識がなくてはできません。お金も手間もかかるし、ひと任せでは良い街はできません。1889 年、日本人の個人所得は世界ナンバー1 でした、この間にも

っとやるべきだったと思います。もうこれからは良い街はできないかもわかりません。（空港 90．大きな橋 3 ありますが・・）

宝塚では震災後、都市設計と街のデザイン（交番所・街灯などなど）を組織に依頼しましたが、他に 20 人のデザイナーを選びました。この時首長がやろうと思えばかなりのことができると思ったし、できました。未来の国を考えると、美しい街づくり･国づくりが非常に大切です。

日本の国は、停滞していくのか、もっと悪くなっていくのか……、希望が持てない時代になるのではないか……現在と江戸時代末期がよく似ています。日本人のセンスが最も磨かれた時代で（ex．漆器の文化・農機具の高いデザイン性）、明治時代は世界でいちばん美しい国でした。（日本女性の美しさ＝小泉八雲の結婚）、もう一度美しい国にしたい。

これから

・ガーデニング……塀で囲んで人に見えないガーデニングをやめ、塀を取り払って美しさを皆で共有する（ex．北海道　恵庭市）。そうすれば人と人の関係が深まりコミュニティづくりになる。
・世界のトップランナーとしての自覚……これから一人所帯が多くなる。高齢者はお金持ちで技能がある。人間関係も豊富、何もしないでいるのは日本にとってマイナスである。
・温暖化・エネルギーの枯渇問題……前世紀は 0.8℃上昇、今世紀は 3℃～5℃の上昇。ヨーロッパは 100 年に 1 度の極寒。オーストラリアは雨量が多く炭鉱の 4 割が水没（20 年間使えない）。日本といえば石油の 98%を中近東に頼っている。日本の農業は石油・石炭がなくては大問題、対策が必要である。
・大陸は水不足（中国の黄砂）。中国やインドなどは食塩問題。

しかし

日本は長期的にみると衰退しないと思う。人口は今世紀末には 6 千万人の小国になる（明治時代は 3 千万人）。農業技術の発展（ex，糞尿を肥料にする技術＝岐阜市）によって、6 千万人になっても食べていける。

そこで人生 4 分割を提案したい。

①学ぶ期間、②働く期間、③リタイア一期間、④その後の 10 年間は農業・林業をする。IT 企業などによる精神障害者は 280 万人いるが、今後まだ増える。しかしこれらの人を自然にかえしてやれば元に戻る。日本人は究極的に日本伝統の中で生きられるという思いを強く持てば乗り切れる。一度危険な目にあったほうがその気になって頑張れる。

原子力発電を使用するとウランの捨て場所がないので太陽エネルギーの更なる技術革新が必要である。太陽エネルギーは山で集める。（日本は国土の 50～60%が山）。現在水を

利用した小さな発電が出来ている＝水車発電。水車発電によって水素プラントを作り水素エネルギーに換える。

∴　長期的に見れば日本は食べていける。

　世界では、一方で人口増加国がある中で日本は減っている。今後を考えると HAPPY と言えるのではないでしょうか。（文責　河野）

2011 年 1 月 28 日

一日バス研修旅行・根来寺と桃源郷めぐり

年に一度の楽しみにしている旅行です。今年は桜と桃が一緒にみることが出来るという和歌山の根来寺と桃源郷。時は 3 月 31 日 9 時三宮を出発、参加者 28 名を乗せたバスは湾岸線を通りぬけ根来街道へと向う。空は快晴、気候は良し、けれど花は無い。桜の名所日本 100 選に選ばれている根来寺もこの日は 1 本のみが私たちを迎えてくれる。広い境内、荘厳な建物、満開時の光景を想像しながら根来寺を後に、海鮮の昼食を済ませ桃源郷へ。1 週間早い旅行となりました。（バス研修担当:坂本）

22 年度締めくくりの①②①②

まずは皆で決めた日程、昨年度最終日に合わせて坂本さんが多忙の中組んで下さった「紀州根来寺の桜と桃畑ツアー」が実現した。

バスの始発が思いがけない三宮のド真ん中、国道 2 号線沿い、しかも通勤ラッシュの最中だから「ムムム」となった人もいて出発。車中、塔筋さんによる「モロゾフ・ゴンチャロフ顔負けチョコ」が配られて、湾岸線を時計回りにぐるりと東へ南へ……①埋立地 ②橋を ①②①②……と繰り返し、りんくうタウンを過ぎて車窓の両側が山の連なりになった時から阪和道、県境を越えて左折、根来寺のある岩出市に、という行程だった。

私め、実は 3 年前から佛教大学に籍を置き佛教を勉強している。十代の終わりにはっきりと自覚を持ってキリスト者になった。もう四十数年日曜日の礼拝をパスしたのは数えるほどだ。葬式仏教と揶揄され、習俗と化し、必ずしも生き方の指針とはなっていないかに見える仏教、本当のところはどうなの、と。

で、ほとんど機会のないお寺への観光は、拝礼の対象ではないが、ある意味皆さんにもまして興味津津なのである。根来寺がどうであったかは皆さんの方がよく心に留められているであろう。仏像のありがたさや様式云々はわからない私だが、枯山水をはじめ、陽光降り注ぐお庭を満喫して辿った。写生する人たちの作品を覗き込むのも一興だった。足の赴くまま見て回り、この度初めてお誘いし、ご一緒できたお友達若田さんと共に集合写真には入り損ねた。岩出民俗資料館で、鉄砲の伝来は種子島の次がここだったと初めて知った。

桃源郷は私たち遠来の来園をはにかんでか思いの他蕾が固く惜しかった。（因みにパラダイス、楽園の原語は果樹園である。）が、重い柑橘類を安さに惹かれて買い込んだ。

帰路の①②①②は綾小路きみまろの爆笑ビデオにお腹の

皮をよじるうち大阪湾を反時計回りにぐるりとひとまたぎだった。（東中）